

和歌山病院での実習を終えて



田淵 丈治

今回、呼吸器内科のポリクリの一環として、二日間和歌山病院で実習させていただきました。2日間という短い時間でしたが、初めての体験がたくさんあり、印象に残ることがたくさんありました。まず一つは、結核病棟の中に入り、病室や病棟全体の構造を教えてもらったことです。初めに結核病棟と言われたときは、周りから隔離された冷たくて怖い病棟と勝手に想像していたのですが、実際に見てみると、N95 マスクを付けること以外は普通の病棟とほとんど変わらないようでした。N95 マスクの他にも、感染予防対策陰圧換気や風のカーテンなどを使って感染予防していると聞いて、かなり徹底しているのだと感じました。

結核病棟の見学の他にも、先生方が様々な酸素マスクの使い方や、結核の感染についてなどいろんなことを教えていただきました。中でも印象に残ったのは、南方病院長に教えていただいた胸部レントゲンのみかたについてです。原理の話から、その応用の仕方、そして病変の見つけ方を分かりやすく教えていただきました。この話を聞くことで、胸部レントゲンについての理解が高まったことはもちろんなのですが、なんとといっても、胸部レントゲンへの興味が生まれたことが僕の中で大きな変化でした。これまでは胸部レントゲン写真が出てきても、どうせ読めないからと諦めていたのですが、これからは自分で読影してみようと思います。

最後になりましたが、大変お忙しいにも関わらず、僕たちにとっても貴重な機会を与えてくださった南方病院長、駿田副院長をはじめ、ご協力いただいた全てのスタッフの方に感謝申し上げます。ありがとうございました。